

2019年度 第1回 にいがた摂食嚥下障害サポート研究会講演会 開催報告

共催：新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻・口腔生命福祉学専攻

後援：一般社団法人新潟県歯科医師会，一般社団法人新潟県歯科衛生士会

一般社団法人新潟県 言語聴覚士会

日時 2019年5月25日（土） 午後1時00分～午後4時40分

場所 新潟大学有壬記念館

参加者数 103名

参加企業 8社

タイムスケジュール

12:00 受付開始

12:30 にいがた摂食嚥下障害サポート研究会会員総会

13:00 開会挨拶

秋元 幸平会長（にいがた摂食嚥下障害サポート研究会会長）

13:05 講演 オーラルフレイルへの取り組み ―フレイル予防における歯科衛生士の役割―

座長 辻村恭憲先生（新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野）

講師 小原由紀先生（東京都健康長寿医療センター研究所，歯科衛生士）

14:15 休憩 企業展示

14:40 講演「新潟市東区における医療・介護連携と摂食嚥下に関わる連携の現状

―「山の下ねっと」と「新潟エッセン」―

座長 井上 誠先生（新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野）

講師 阿部行宏先生（阿部胃腸科内科医院，新潟エッセン代表，医師）

15:40 事例報告

座長 真柄 仁先生（新潟大学医歯学総合病院 摂食嚥下機能回復部）

講師 川崎 隆憲 先生（川崎歯科医院）

浅見 浩之 先生（サン歯科クリニック）

佐野 明彦 先生（医療法人社団彩明会）

16:35 閉会挨拶

井上 誠先生（新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野）

概要

本講演会では2名の講師講演，3名の症例報告が行われた。

最初の講演では，「オーラルフレイルへの取り組み ―フレイル予防における歯科衛生士の役割―と題して，東京都健康長寿医療センター研究所の小原由紀先生にご講演いただいた。高齢期における口腔機能の重要性について実態調査のデータを示しての説明がなされた。また，オーラルフレイルの考え方，対応，その中で歯科衛生士に何ができるのかなど，歯科関係者へのエールも含めて具体的なシーンを挙げながらお話しいただいた。

休憩時間には，ステーション会員の展示ブースに参加者が多く集まり情報交換が行われた。

休憩をはさんで，新潟エッセン代表で阿部胃腸科内科医院の医師である阿部行宏先生から，「新潟市東区における医療・介護連携と摂食嚥下に関わる連携の現状―山の下ねっと と 新潟エッセン―」と題してご講演いただいた。「安心して暮らせる地域に」という共通認識の下，顔がみえる医療，福祉，行政の多職種・多機関連携を実践している山の下ネットおよび症例検討や嚥下評価基準作成を行って摂食嚥下の改善に取り組む新潟エッセンについて紹介いただいた。本講演会の参加者には歯科医が多い中で，多職種連携のノウハウや課題を明確化すること，各地域で独自に取り組む工夫のヒントをもらえるという意味でも意義深い内容であった。

症例報告では，新潟大学医歯学総合病院にて摂食嚥下治療登録医制度のもとで研修を受けた3名の先生から事例報告があった。川寄隆憲先生からは甲状腺腫瘍に対する放射線治療後の晩期障害，反回神経麻痺症例への対応が，浅見浩之先生からはレビー小体型認知症症例に対し病診連携を行った症例が，佐野明彦先生からは脳梗塞後遺症の既往のある症例に対し施設と協力して対応した症例が報告された。耳鼻科や認知症の治療における神経内科医や連携病院との関わり，施設関係者の理解や協力などを含めて，臨床の困難さをうかがわせる臨場感あふれる症例であった。

限られた時間の中で多くの先生方から質問をいただき，講演会は盛会のうちに終了した。

参加者によるアンケート結果（有効回答数61名 回答率59.2%）

1. 参加者の性別

- ①男性 14名
- ②女性 44名
- ③無回答 3名

2. 参加者の年齢層

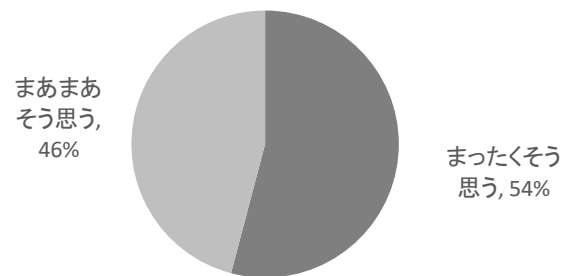
- ①10歳代 2名
- ②20歳代 5名
- ③30歳代 10名
- ④40歳代 15名
- ⑤50歳代 21名
- ⑥60歳代 8名

3. 参加者の職業

- ①学生 2名
- ②医療関係者 54名
内訳：医師・歯科医師 16名，歯科衛生士 20名，看護師 7名，言語聴覚士 3名，
管理栄養士 5名，無回答 3名
- ③会社員・公務員 1名
- ④その他 4名

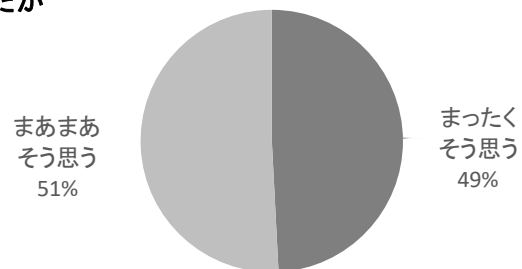
4. 今回の講演会は有意義なものでしたか

- ①まったくそう思う 33名
- ②まあまあそう思う 28名
- ③どちらとも言えない 0名
- ④あまりそう思わない 0名
- ⑤全くそう思わない 0名



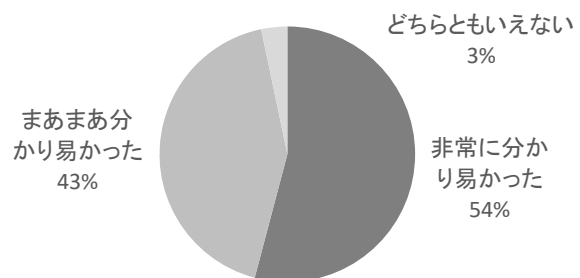
5. 今回の講演会はあなたの興味に対して適切でしたか

- ①まったくそう思う 30名
- ②まあまあそう思う 31名
- ③どちらとも言えない 0名
- ④あまりそう思わない 0名
- ⑤全くそう思わない 0名



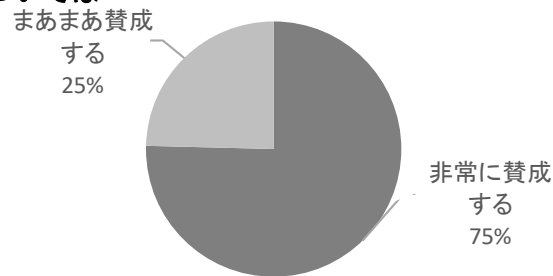
6. 講演内容の難易をどう感じましたか

- ①非常に分かり易い 33名
- ②まあまあ分かり易い 26名
- ③どちらとも言えない 2名
- ④あまり分かり易くない 0名
- ⑤全く分からない 0名



7. 今後このような主旨の講演会を開催することについては

- ①非常に賛成する 46名
- ②まあまあ賛成する 15名
- ③どちらともいえない 0名
- ④あまり賛成しない 0名
- ⑤まったく賛成しない 0名



8. その他の意見

- 小原先生の話も、阿部先生の話でも、連携が大切なことを再認識しました。しかし、いかに多くの人々とつながるか、その方法をきっかけ、システムづくりが議題ですね。
- 多職種のお話や、他地域での取り組みを聞くことができよかったです。
- 都合がつけば、また勉強させていただきたいと思います。年間の日程がもう少し早めにわかるとありがたいです。
- 職種が混ざってグループワークなどで情報交換できる機会があると嬉しいです。他施設で何ができるか考えさせられました。ありがとうございました。
- 病院 ST として嚙下に関わっていますが、阿部先生のお話の中であったように「安全重視」で形態や姿勢のゴールを決めてしまいがちなので、患者側や介護側の思いをしっかりと把握したうえでゴール設定をしていきたいと思っています。ありがとうございました。
- フレイル自体わからない言葉だったが、今日のお話をきけて今後の患者さんとのかかわりに活かしていけたらいいと思いました。
- 自分のやりたい方向性と合致する内容でとても参考になりました。
- 開業医にとって土曜開催は厳しいです。
- 多種多様なテーマで非常におもしろかったです。
- 行動変容へのアプローチ方法は、他の疾患や生活習慣病への指導に活用できると思いました(看護職)。資料があることは大変ありがたいです(最近の研修会は資料がないことが多いので。もう少し字が大きいともっとありがたいです)。新潟市東区における医療福祉の連携における摂食支援に関して実際を知ることができ、とても参考になった(自施設では、なかなか地域との連携をすすめるといっても、すすんでいない実態があり・・・すごいと思った.)。
- 在宅での機能訓練について、継続・持続させる方法(モチベーションの維持について)。
- 多職種が連携することで在宅での食生活が向上したり、栄養状態が改善する可能性が高いことは知っていたが、やはり連携の仕方が難しいと痛感していたので、今後、今回得た情報を使って情報提供に写真も付けてやってみたいと思いました。今後歯科の先生方とも連携していきたいと思っています。



新潟大学有壬記念館



開会挨拶 秋元幸平会長



座長 辻村恭憲先生



講師 小原由紀先生



座長 井上 誠先生



講師 阿部行宏先生



座長 真柄 仁先生



講師 川寄隆憲先生



講師 浅見浩之先生



講師 佐野明彦先生



質疑応答



質疑応答



企業展示



会場風景



集合写真